

Ⅷ 住宅内装製品への県内産広葉樹材の活用に関する研究

(実施期間：平成 29 年度～31 年度 予算区分：単県課題 担当：半澤綾菜)

1 目的

近年チップ材として扱われることが多くなった広葉樹材について、付加価値の高い用材（内装材・家具等）としての利用を促すために、広葉樹材の材質を樹種別に調査して、各々に適した加工・利用技術を提案する。

2 実施概要

(1) 方法

長さ 2m に玉切りした大山産コナラ丸太 29 本を、厚さ 25mm もしくは 50mm の板材に製材した。板材は蒸気式木材乾燥機で約 10 日間の中温乾燥（最高温度 55℃）を試み、乾燥による割れなどの発生状況を調べた。

(2) 結果

①割れ：ほとんどの板材で割れが発生し、特に厚さ 50mm の板材や髄を含む板材で大きな割れがみられた（図 1）。

②落ち込み：製材後に材表面が急速に乾燥されたことによって、筋状の「落ち込み」が多く発生した（図 2）。

これらを踏まえ、コナラ材はⅠ）髄をはずした木取りで製材し（図 3 右）、髄を含む部分は製紙用・燃料用として利用し、歩止り向上を図ること、Ⅱ）製材直後に木口をアクリル樹脂などでコーティングして、木口からの急激な乾燥を防ぐこと、Ⅲ）乾燥初期に天然乾燥を行い、ある程度まで含水率を下げた後に、仕上げに人工乾燥を時間をかけて行うことが望ましいと考えられた。

3 結果の図表と研究の様子

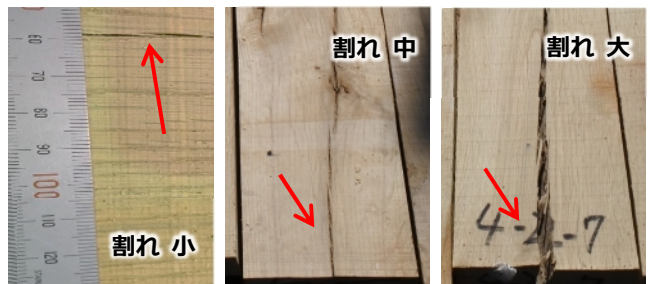
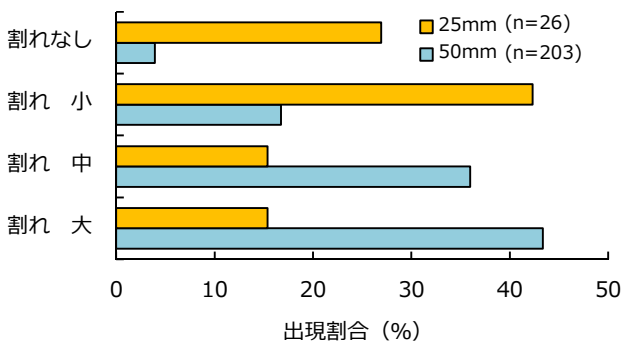


図 1 割れの発生状況



図 2
材面に生じた
筋状の落ち込み

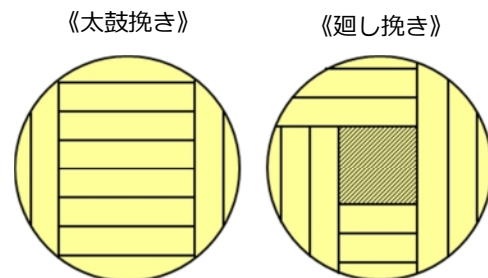


図 3 製材木取り

(左：今回、右：提案(斜線部分はチップなどに使用))